

よく打ちよく捕るティーボール ～新聞紙ボールと練習の場作り～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

「バットの操作は難しい」 だったら個別に多くの練習の場を準備してあげよう



ヒントはゴルフの打ちっぱなし 3年前、当てやすいバットと新聞紙をガムテープで包んだボールを大量に作成（市販のボールと違い転がりにくいため、打つ回数増）



そして今年、高瀬小でもやってみました

この間、数名の先生に用具を貸していたため、新聞紙ボールも柔らかくなっていた



本校はグラウンドが狭いので6ヶ所でティーバッティング 次打者は広報サークルで素振り

本校のティーボールは打者と走者に役割を分担します。打った人は次は走者になるということを順に繰り返します。

このことにより、打者が打った後にバットを投げるといったことはありません。また走者が打者にアドバイス、打者が打った後に走者にアドバイスを行うことが必然になり、対話的な授業になっています。

また、新聞紙ボールのため当たっても痛くなく、女子児童が野球を習っている男子児童のフライをキャッチをするシーンも多く見られています。打つことで遠くに飛ばせなくても、フライをキャッチしてアウトにすることを楽しみにしている子もいます。



<現在のルール>

走者の戻りが速いか、守備者が所定サークルに集まるのが速いか



新聞紙ボールとボールを追う子どもたち

新聞紙とガムテープで作られたボールは、当たっても痛く無いので怖がることなくキャッチにいきます（まるで新築の餅まき状態）



ボールを追う
子どもたち

みんなビックリ
するぐらい上手です

爽やかな秋空に
「ナイスキャチ」「ナイスバッティング」
のふわふわ言葉が響き渡っています